

本を読むってどんなことだろう？

11/17 全校朝会・校長講話より

10月27日から11月9日までの2週間は「秋の読書週間」でした。本来ならその始めの頃と思っていたのですが、ちょっと遅れての話です。読書について話をしました。最初に長崎の「かえる報恩」という昔話を聞かせました。あらすじは次の通り。

蛙報恩

あるところに庄屋があった。庄屋には一人の美しい娘がおった。

ある日、庄屋の妻が畑に出ると一匹の小さな蛇が、これまた小さな蛙を飲み込もうとしていた。庄屋の妻はかわいそうになって、「これこれ、蛇。その蛙を飲まないでおくれ。飲まなかったら、私の娘をおまえの嫁にやろ。」と冗談で言ってしまう。そうすると蛇はたちまち四斗樽みたいな太さの大きな大蛇になってその場を立ち去った。

その夜、大蛇は庄屋の家を訪ねて、「約束通り、娘を嫁にくれ。」という。庄屋はどうかその場を取り繕ったものの、毎晩毎晩訪ねてきては、「嫁にやらねば、村に大水をおこす。」と言う。庄屋は、困り果てて娘に相談し、娘はいやおうなく蛇の嫁になることを決意する。

ある夜、娘はきれいに着飾って湖の畔に立ち両親や村人と大蛇が迎えに来るのを待つ。そうすると空一面に雲が湧き、大蛇が現れた。そのとたん、一匹の蛙が飛びだし、大蛇に向かっていく。一匹が倒れると次から次に無数の蛙が飛びだし、大蛇にかみつくととうとう大蛇をやっつけ、娘は助かった。この蛙たちの供養のため村には碑が建てられたという話。

この昔話を絵も提示することなく聞かせ、「じゃあ、今のお話に出てきた、蛙か蛇を絵に描いてみましょう。制限時間は2分。」と言うと、「ええっ～」と言いながら子どもたちは絵を描いてくれました。これがすごい！やはり子どもは天才です。そのいくつかが右の通り。



「みんなの大好きなアニメワンピースのルフィーといたらどんな顔を想像する？こんな顔かな。」(左絵) 表情が違っててもマンガやアニメで想像するのは同じになります。これが、本とマンガの違い。マンガも今や日本を代表する文化です。これは、これとして価値あるものだと思います。でも、一般的な読書はマンガより想像力を広げます。

これは絵本でも同じです。絵で描かれた場面と場面の間を想像します。

上の話の蛇でも、蛙でも子どもたちの想像は十人十色。また、わからない言葉だって

前後の話の脈絡で想像できます。1年生は「庄屋」だってよくわからなかったけど、「なんとなく偉い人かな？」「ものを売っているお店屋さん？」と想像したとか。「四斗樽」なんて知っている子はいなかったと思いますが、「すごくでっかいことを例えているんだな。」ということがわかれば上等！

こうやって、どんな想像だってできる、どこへでも行ける、私みたいな年になっても子どもにだってなれる、時代だって飛び越えられる、それが読書です。

でも、「読書、あんまり好きじゃあないな。」という子もいて当然です。だいたい、こうやって話している私自身、小学校頃は読書嫌いでしたから。そういう子どもたちに本を少しでも好きになるコツを伝授しました。(私なりの考えですので、「そりゃあ違う！」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。)

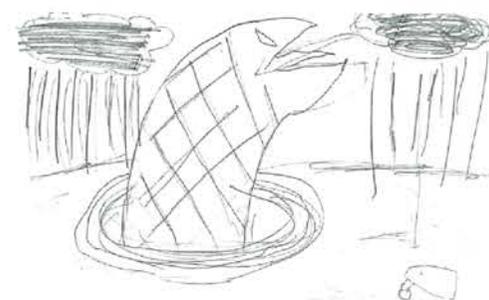
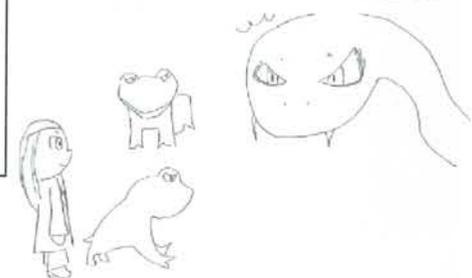
読書が好きになれない君へ

- 1 わかんない言葉があっても 読みとぼしちゃえ。
- 2 かんたんな本からでもいいから、自分の好きな本から読んじゃえ。(図鑑だってりっぱな本です)
- 3 どうしてもおもしろくなかったら本を取っ替えちゃえ。

どうしても読ませたいとの思いから、私たちは子どもたちに読書を強要しがちです。これはどうもあまり功を奏すことにはならないようです。できれば本を読む環境をつくってやって、少しでも本を手にする子どもを増やしたいと思います。学校で取り組んでいる朝の読書も、ボランティアグループ「たんぼぼ」のみなさんがやってくださっている読み聞かせも、その一つのきっかけづくりです。

赤い羽根募金へのご協力を

ご家庭でも行っていらっしゃると思いますが、赤い羽根募金を学校でも児童会が始めます。子どもたちのできる範囲(お小遣いやおやつを買ったおつり等)でのご協力をお願いします。(21日～25日朝、運営委員会が集めます。)



感動とあこがれをありがとう

11月10日(木)小値賀中学校の学習発表会が開催されました。小学校ではちょうどこの日職員の出張等が多く人手不足だったため、私は全てを見ることはできませんでした。しかし、値中生徒のひたむきさと一生懸命さと堂々と表現する姿に感動しました。日々学校という職場にいながら、子どもたちの姿で感動させられることは度々あるのですが、それはいったい何なのだろう？いったい人は何に感動しているのだろう？そういうことを自問自答しながら見ていました。オリンピックにせよ何にせよ、そこにあるその姿の裏にこれまでの努力を垣間見ることができるところに感動があるように思います。



値中の生徒のみなさんもこれまでに一つのことをみんなで仕上げようと一生懸命がんばってきました。同じ校舎の中ですので、ときには先生方から厳しく指導されている姿も見ました。なかなか合わないハーモニーを一生懸命一つにしようと何度も練習する姿も見ました。先生方の指導方針もぶれることなく、子どもたちに伝わっているのがよくわかりました。そん

ながんばりを横目で見ていたこともあったのですが、一人残らず自分の持てる力を発揮しようとしている姿がしっかり見ている私たちに伝わってきました。

小学校は例年、5・6年生がその一部を参観させていただくのですが、この子たちもそのすばらしさに感動し、中学校に向けての大きな希望を抱くいい機会となりました。まさに、伝統を肌身で感じる時間となりました。

以下、5・6年の感想を紹介します。(参観させていただいた時間が2・3年生と吹奏楽部のプログラムだったので、1年生に向けてのコメントがないことをご了承ください。)

私は、3年生の劇のNEWS 50 がすごいなあと思いました。修学旅行で学習したことがとてもわかりました。CMがとてもおもしろかったです。歌声がとてもきれいだなと思いました。

吹奏楽でマーチングが一番すごいなあと思いました。初めてマーチングを見ることができました。ソロ演奏が一番すごいと思いました。私も人前で堂々と発表ができるようになりたいです。

5年 橋本 萌愛

私が体験型RPG「目指せ!1UP!!～野崎の達人～」(2年生)を見てすごかったところは、劇を本格的にしていたところです。劇があったので、野崎島の歴史がよくわかりました。

もう一つすごかったことは、「太田さんと仲間たち 修学旅行より」(3年生)です。修学旅行で学んだことなどを生かして発表をしていたので、私も旅行に行きたくなりました。

一番心に残ったことは、吹奏楽の「一音一心～響け!!みんなの心～」です。マーチングやアニメなどの曲を演奏していたので、とても楽しめる吹奏楽でした。私も音楽の授業をがんばりたいです。学習発表会では、劇やマーチングなどのたくさんの発表があったので、歴史などは覚えていきたいです。

5年 渡部 愛加

中学校のみなさんへ

今回の学習発表会はとても楽しかったです。2年生の発表は野崎のことを発表していて初めて知ったことなどあり、3年生はニュース風に発表したり、ミュージカルも取り入れていたのでおもしろかったです。他にも吹奏楽部の演奏もすごかったです。私は来年、中学生なので見ている人を楽しませる発表にしたいです。

6年 牧尾 ありす

中学校のみなさんへ

今回は学習発表会を見せてくださってありがとうございました。学習発表会で一番感動したことは、吹奏楽部です。それを聞いてとてもいい曲だと思いました。来年は、ぼくも1年生になるので学習発表会を楽しみたいです。

6年 北野 悠矢

子どもたちの感想からもわかるように、中学校入学に向けてのあこがれと希望を持つことができた時間だったように思います。5・6年生は見ていないのですが、生徒会のオープニングから1年、保体有志のプログラムもよく考えられたすばらしいものでした。



また、エンディングで披露された、数年前の先輩たちが作ったという「いつまでも」の全校合唱は涙が出るほどでした。

値中生徒の諸君、

本当に感動をありがとう!



ハードルを越えろ

11月18日(金)、大島分校の「学習発表会&ミニレクリエーション大会」を開催しました。小値賀小本校からは、毎年1・4年生がちょっとだけプログラムに加わり出し物を披露し、分校の子どもたちの発表を参観します。大島住民のみなさんは昔から住民総参加かと思われるほど多くのみなさんが参加、小値賀本島からもたくさんの保護者のみなさんがご参観くださいました。

今年度、大島分校は1年生が2名、2年生が1名、6年生が1名、全員女の子合計4名の女子校です。この4人での学習発表会は大島分校にとっては最大のイベント。この発表会に向けて分校では、普段の授業の傍ら長い期間をかけて鍛えていくわけです。

プログラムとしては次のようなものがありました。

分校の1日(1・2年)

大島分校4名の1日の生活の紹介です。朝は始業前にラジオ体操、金比羅山までウォーキング。朝の様子から、授業の様子、給食は4名の児童と4名の先生方がみんないっしょに食べる。昼休みも先生方を含め、いっしょに遊ぶこと。写真を写しながら1年と2年の3名で発表しました。

修学旅行体験記と大島「自力更生」の研究(6年)

6年生、濱田結萌さんは本校のみんなと行った修学旅行のことと、大島で昭和30年代始めまで行われていた「自力更生」の取組について発表をしました。ほとんどの方がご存じかと思いますが、大島ではかつて経済的に困窮していた家庭を隣の宇々島に1～2年住まわせ、島の畑や周辺の海産物の恵みをその家庭だけが得、経済的に安定させる、その間の税金は郷で肩代わりをし、郷の役目(奉仕作業等)は免除する、という風習がありました。そのことを実際に宇々島に上陸してみたり、大島のお年寄りに聞いたりした研究の発表でした。

劇「きつねのおきゃくさま」(全員)

2年生の国語の教科書にある「きつねのおきゃくさま」を4人+教頭先生(オオカミのちょい役)で演じました。

そして、何と言っても見ているものを感動させたのが、縄跳び「ダブルダッチ」と一輪車の披露でした。ダブルダッチは長縄を2本同時に逆に回し、その中を交互に跳んだり、2人同時に手をつないで跳んだりしていました。一輪車は音楽に合わせて円を描いたり、手をつないでのパフォーマンスをしたりとなかなか高度な技を披露しました。



ダブルダッチも一輪車も1年生を含めての競技です。最初からの取組で、もちろん初めは一輪車にも乗れない、縄もうまく跳べない状態だったものをこの大舞台で披露するまでに鍛えました。学習発表会のこの場で4人みんなが力を合わせ披露するというハードルを越えるためにです。うまくいかないときは誰かのせいにするということもあったでしょう。もうできないのではないかとあきらめそうになるときもあったでしょう。でも、歯を食いしばりハードルを越えたところにやりがいと達成感と自信がみなぎってきます。分校4人でのすばらしい学習発表会でした。



わたしががんばりたかったことができました。それは、一りん車です。一りん車でこけずにできたので、とてもよかったです。一りん車で、いっぱいがんばれたのでよかったです。わたしがたのしみにしていたこともできたのでよかったです。たのしみにしていたことは、がっそうです。がっそうはきんちょうしたけれど、たのしかったです。がっそうをみんなできてよかったです。

1年 はまだ まお

わたしががんばったことは、ダブルダッチです。ダブルダッチでえがおでとべたのでよかったです。

わたしがおもしろかったのは、げきのきつねのおきゃくさまです。大きなこえて、おきゃくさんにきこえたのでよかったですとおもいます。

1年 こさき あのん

わたしががんばったことは、げきとダブルダッチです。げきでは、うごきとことばをがんばりました。ダブルダッチでがんばったことは、なわにあまりひっかからないようにすることです。

わたしが一番楽しかったことは、一りん車と大島分校の一日です。一りん車は、メリーゴーラウンドとスラロームが楽しかったです。大島分校の一日はまちがわずに言えました。ちょっときんちょうしたけど、「昼休み」を発表するときに楽しかったです。

来年の学しゅうはっぴょう会もがんばります。

2年 はまだ なぎさ

このほかに分校児童と職員全員による合奏や本校1年生・4年生による暗唱、合奏、合唱などが披露されました。最後は、私が大島分校にいた頃から歌い継がれた「学校坂道」の合唱で幕を閉めました。

学校坂道

この坂道のぼったら ぼくの学校があります
ジャングルジムにのぼれば海が
まっさおに見えます
青空に抱かれた ぼくの自慢の学校
この坂道をぼくは毎朝 風をきってかけます
この坂道おりるのは 空が赤く燃える頃
丘を渡る澄んだ空気 後ろに長い陰
友だちの笑顔も 夕焼けに染まります
この坂道をぼくは明日も 口笛とのぼります



小値賀小学校本校でもまだまだ見習うことが多いように感じる1日でした。

完売です。ありがとうございました。



20日の産業まつりで5年生が収穫した「すつてくろ米」と6年生が作成した「小値賀子ども景観カレンダー」を販売したところ、多くの皆様にご購入いただき完売しました。ご協力誠にありがとうございます。

それぞれの売上金は、5年生は稲作体験等でお世話になった方々を招いて行う「感謝祭」の費用に、6年生は卒業アルバムの費用の一部として活用させていただきます。

また、「小値賀子ども景観カレンダー」につきましては、役場産業振興課と横山文具店でも販売しております。ご希望の方はそちらでお求めくださいますようお願いいたします。

熟年大学のみなさん、ありがとうございました

11月15日(火)、熟年大学の皆様をお招きして、1年生との昔遊び交流を行いました。交流会ではお手玉、けん玉、コマ回し、竹馬などの昔遊びを手取り足取り教えていただき、笑顔でがんばっている1年生でした。

最近買ったもの、作られたものでしか遊ぶ経験のない子どもたち。また、集団で交流しながら遊ぶことが少なくなった子どもたちです。遊びものから作る体験、昔ながらの自然のものを使って遊ぶ体験、後生に残していきたいものです。

また、ご年配の方とこうやっておしゃべりをし、コミュニケーションをとる体験は、子どもたちの社会性を養う上で貴重な学習の場だと思います。



ぼくは けんたまをやって たのしかったです。おじいちゃん、おばあちゃん、たけうまを おしえてくれて ありがとうございます。むかしあそびを おしえてくれて ありがとうございます。

いとう こういち



わたしは むかしあそびの お手だまあそびが たのしかったです。おじいちゃんとおばあちゃんといっしょにご飯をたべられてうれしかったです。ありがとうございます。

たなか あみか

